

入省案内2019

一般職(電気・電子・情報)
情報セキュリティ・IT人材

ひと、くらし、みらいのために



厚生労働省

Ministry Of Health, Labour And Welfare



ICTの活用による行政の礎づくり

厚生労働省は、国民一人ひとりが、家庭、職場、地域等において、持てる力を発揮し、ともに支え合いながら、健やかに安心して生涯を送ることができるよう、社会保障・労働政策を通じて、将来にわたる国民生活の質の向上と社会経済の発展に寄与することをその使命としています。

一方、行政の推進に当たっては、ICT技術が進展する中、情報セキュリティ対策の強化等、着実な取り組みが必要とされています。

厚生労働省では、IT人材の計画的な確保・育成を図るため「厚生労働省セキュリティ・IT人材確保・育成計画書」を策定し、現在、この計画に沿った取り組みを実践しており、その一環として、一般職（情報セキュリティ・IT人材）を計画的に採用しています。また、採用後も将来を見据えたキャリアパス並びに情報システムの企画・立案、プロジェクト管理等に関するスキルの向上を図っています。

厚生労働省を志望する皆さん、ICTを用いた厚生労働行政の礎を我々と一緒に築きましょう。

宮川厚生労働審議官 情報化統括責任者（CIO）・最高情報セキュリティ責任者（CISO）

Mission

ICT等情報技術を活用し、国民生活の質の向上と社会経済の発展に寄与

業務内容

省内全体のICT施策を統括するPMO（省内全体管理組織）

PMOは省内の情報システムを統括し、デジタル・ガバメントを推進しています。CIO及び副CIOのリーダーシップの下、ICTに関する専門的な知見を有するCIO補佐官からの指導・助言を得ながら、次の業務についてマネジメントを行っています。

- ◆ ICTを活用した業務改革の推進のためのリーダーシップ
- ◆ 省内の個々のサービス改革の統括、省内の全体最適化を推進
- ◆ 省内の情報システムに関する予算の要求、執行及び調達統括
- ◆ 各政策と整合的にICTをどのように業務に活用していくか等の方針の整備

厚生労働省における主なPJMO（プロジェクト推進組織）

PJMOは厚生労働省が遂行する各種業務に関する情報システムの整備・管理を行っています。主なPJMOには、政策統括官（厚生労働省LANシステム）、年金局（公的年金業務）、労働基準局（労働基準行政、労働保険適用徴収、労災保険給付）、職業安定局（職業紹介、雇用保険給付）等があり、情報システムを活用した行政サービスの効率的・効果的な提供のため次の業務を行っています。

- ◆ 業務・システムの現状分析、見直し、セキュリティ面の検討、予算の要求及び管理
- ◆ 次期システムの設計・開発等に係る要件定義、事業者の選定
- ◆ プロジェクトの進捗管理、品質・コスト・セキュリティ等の管理
- ◆ 運用・保守管理

情報システムを活用する業務部門

国民サービスや事務の効率化の観点から、システムユーザとして担当業務におけるシステムの利活用を図るとともに、システムによる効率性及び効果等について検証し、より利便性のある機能追加等について提案します。

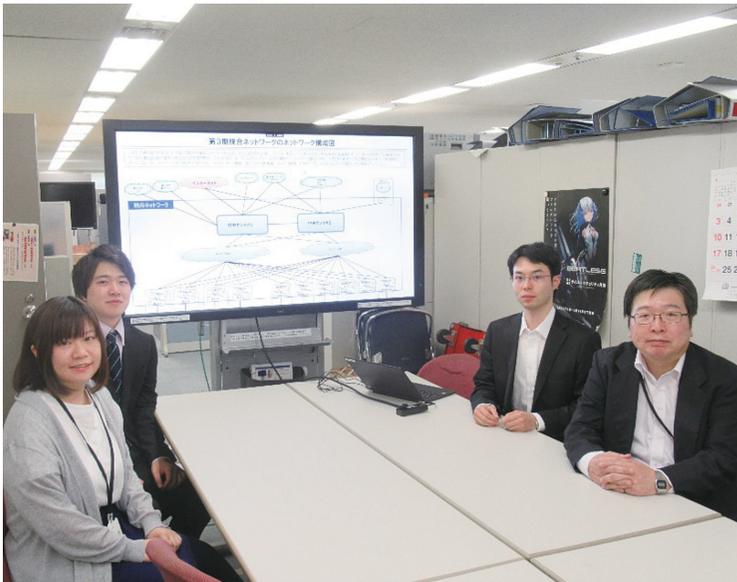
採用後の配属先

採用後、厚生行政、労働行政の各部門（PJMO等）に配属されます。
その後、所属するPJMOを中心に、PMOや他のPJMOにおける業務を経験します。

主な勤務場所

厚生行政：中央合同庁舎5号館（霞が関）、日本年金機構（高井戸・三鷹他）
労働行政：中央合同庁舎5号館（霞が関）、上石神井庁舎、
都道府県労働局・労働基準監督署・ハローワーク





政策統括官付情報システム管理官

(併任 情報システム管理室長) 奥垣 雅章

部下に期待する資質とは

厚生労働省では、皆さんのようにICT分野に強い人の他、法律や経済に長けた方、医療分野等、様々な分野の方が採用されて、共に仕事をしています。

そのため、多様な価値観があります。

一般職(電気・電子・情報)として採用されても、いろいろな職種の方と積極的に交わり、知識・経験を深化して頂くことを望みます。

また、職員一人ひとりも多様な価値観を持っているので、私自身、職員の考えを尊重いたします。

職員一丸となりICTを用いた厚生労働省改革に取り組む

厚生労働省全体の業務を支える

政策統括官では、厚生労働省における情報政策の企画立案に関する業務や情報システムの整備を行っています。

例えば、大規模な健康・医療・介護の分野を連結したICTインフラに関する検討を行っています。

また、厚生労働省ホームページや職員が利用する電子メール・電子掲示板等の整備・運用を行っています。

最も印象深い業務

厚生労働省では、ICTを活用する事により、①正確かつ効率的な社会保障給付の実現、②分野横断的な業務プロセスの効率化、③国民の利便性向上、④関連データの積極的な有効活用などを図るため、厚生労働大臣の下に、「ICT利活用推進本部」を設置するとともに、本部直属のチームとして、「ICT利活用推進チーム」を立ち上げました。

「ICT利活用推進チーム」のメンバーは、職員公募により選定し、結果、若手主体のチームが誕生し、検討結果を取りまとめました。厚生労働省では、現在、その実現に向けて取り組んでいます。

皆さんへ

平成13年1月に旧厚生省と旧労働省が統合し、厚生労働省が発足しました。同年に策定した「厚生労働省行政情報化推進計画」においては、目標として、「行政事務の情報化の積極的な推進により、省内における事務・事業の効率化を図るとともに、情報システム等を活用して、国民等に対する行政サービスの向上、厚生労働省と国民等の電子的な連携を一層密にする」ことを掲げましたが、残念ながら、十分には達成していない状況です。

一方、「ICT利活用推進チーム」等、厚生労働省内で組織等の垣根を超えた取り組みも始まっています。

時代も平成から令和へと移り変わります。

若い人々の考えも取り込みながら、職員一丸となりICTを用いた厚生労働省改革に取り組ましましょう。

平成31年	現職	情報政策担当参事官室室長補佐
平成28年	同部	情報システム管理室長補佐
平成24年	同部	情報システム管理室長補佐
平成19年	統計情報部	情報企画室長補佐
平成17年	総務省行政管理局	副管理官
平成12年	同室	情報企画係長
平成10年	共用データベース企画係長	
平成8年	同部	情報企画室
昭和56年	汎用ソフトウェア第二係長	
	統計情報部	電子計算機室
	国立湯田温泉病院	
	プロファイル	おくがき まさあき



年金局 事業企画課システム室 情報企画専門官 野口 直

大規模プロジェクト参画にやりがい

社会保険オンラインシステムは、国民の身近な暮らしを支えるものであり、市区町村や金融機関等の関係機関も多い、大規模かつ重要なシステムです。

現在、「社会保険オンラインシステム」を再構築するプロジェクトを進めています。公的年金業務の将来を担う大規模なシステム開発のプロジェクトに参画できていることにとってもやりがいを感じながら、一步一步着実に前進させたいと思っています。

皆さんへ

複雑化した公的年金制度を正確かつ公正に運営することは厚生労働省と日本年金機構の役割であり、国民生活の支えとなる年金を正確・確実に支払いするため、安心・安全なシステムを上げること、安定的な運用を行うことは私たちの使命です。

皆さんがお持ちのITの知識や経験をこのようなシステム開発やシステム運用の場面で活かしてみませんか。

システム開発の場面ではITの知識や経験の少ない業務部門とのコミュニケーションが不可欠となります。皆さんが持つITスキルに加えて業務の知識やコミュニケーションスキルを磨いていただき、是非、新たな社会保険オンラインシステムと一緒に作っていきましょう。

複雑化した公的年金制度を正確かつ公正に運営

現在の業務

公的年金制度では、種々多様な被保険者の記録を管理し年金の支払いに至るまでの様々な業務運営を社会保険オンラインシステム（国民年金及び厚生年金保険の被保険者の適用、各種保険料の徴収、年金給付等の業務システム）を用いて実施しています。

私は、現在は、年金給付の業務システムについて、国民サービスの向上や正確で安定的な業務運営など、システムの最適化を目的とした課題に対して日本年金機構の職員と共に取り組んでいます。

最も印象深い業務

政府が行政手続きのデジタル化を推進している昨今では、単に業務をシステム化するのではなく、業務とシステムの両面から最適な姿を考察することが求められます。

システムの利用者である日本年金機構の職員と共に、業務とシステムに求める要件の見える化やそのためのユーザーヒアリングを実施する中で、効率的で利便性の高いシステムを構築するためには、業務内容を正確に把握し洗い出された課題や要求を如何にしてシステム化（具体化）するかが、難しくも重要であることを実感しています。

プロフィールのぐち なおし
平成元年 社会保険庁入庁
平成15年 社会保険庁総務部経理課出納係
平成22年 年金局事業企画課会計室決算係
平成23年 日本年金機構八王子年金事務所
国民年金第一課
平成26年 関東信越厚生局健康福祉部年金課
平成29年 現職





職業安定局 労働市場センター業務室
職業紹介システム係長 榎葉 杏子

使いやすいシステムをどうすれば作れるか

上司にも気軽に相談できます

労働市場センター業務室で所管しているシステムはとても規模が大きいので、関係する事業者も非常に多くなります。職員同士で打ち合わせするよりも関係事業者と調整している時間の方が長いという独特の雰囲気の職場です。上司にも気軽に相談することもでき、的確な助言をしてもらっています。また、若手職員が多く、着任したばかりの方もすぐに新しい環境に馴染めているように感じます。

皆さんへ

システム化したら便利になって仕事が減る効果が得られるか？という点必ずしもそうとは限りません。業務を行っている現場において、どのようにシステムが使われているのかを理解していなければ、システム化したことで逆に仕事が増えてしまうという事態もあり得るのです。お金をかけたシステム＝良いシステムではないので、使いやすいシステムをどうすれば作れるのかを考えられる人が求められます。

厚生労働省の業務は幅広くすぐに理解するのは難しいですが、色々な立場の人と積極的に会話し、使う人の助けになるシステムを一緒に作っていきましょう。

現在の業務

労働市場センター業務室は、全国のハローワークで使用されている業務システムの運用、開発を担っています。

私が担当しているのは、多岐にわたるハローワークの職務のうち、職業紹介にかかるシステムになるので、仕事をお探しの方をサポートしているという自負を持ちながら業務に取り組んでいます。現在は、新しいシステムのリリースが迫っているため、研修内容の検討や調整、操作マニュアルなどの作成も行っています。

どう使われるか考える

システム担当部署に在籍していると、システム更改に関わるプロジェクトに携わることがあります。そしてシステム更改時には必ずデータ移行作業が発生します。

データ移行は、システム上の制約（ソフトウェアのバージョンの違いや機器の変更）だけではなく、現行システムで入力されているデータがどのように使われているのか考慮しなくてはなりません。

移行作業はシステム更改という大きなプロジェクトの一部ではありますが、「業務を理解し、次へどう繋げていくかを検討する」という基本姿勢を学び、今も大切な経験となっています。

プロフィール しんば きょうこ
平成11年 厚生労働省入省
平成16年 職業安定局労働市場センター業務室
平成21年 トータルシステム管理係
平成25年 職業安定局労働市場センター業務室
平成30年 職業安定行政システム係主任
現職 人事院職員福祉局情報システム専門官



労働基準局 労災保険業務課
年金業務係 吉田 光希

職場の雰囲気

入省時、私はシステムの知識はあまりなく、何をすればよいか右も左も分からない状況でした。そんな中優しく教えてくださる上司に支えられ、数多くのことを学び、1年目を乗り越えることができました。システムに詳しい方、経験者の方が即戦力になることはもちろん、未経験者でも入省後に学んでいくことで、システムの調達業務、開発業務等において、大いに活躍することができました。

さらに、プライベートでも仲の良い同期たちに囲まれ、おかげで楽しい社会人生活を歩むことができています。

皆さんへ

日常生活において様々な電子計算機・アプリケーションを利用していることかと思いますが、「ここ改善して欲しいな」と思うことが多々あるでしょう。ここ労災保険業務課では、より良いシステムを作り上げることで全国の労働局や監督署の職員の想いを実現することができます。システムを通じた労働行政に貢献してみませんか。心よりお待ちしております。

働きやすい社会を実現するために、行政としてできることは

現在の職務

仕事中や通勤中にケガ・病気・死亡など被災した際に、労働者やその遺族に対して必要な保険給付を行う、労災保険制度があります。

現在は、その給付事務に関する業務を行っています。労災保険給付業務において、個人番号を用いることで、各種手続きにおける提出書類の一部を省略し、受給者の負担を減らせるよう取り組んでいるところです。

最も印象に残った業務

今までで一番印象に残っている業務は、全国の都道府県労働局や労働基準監督署などで利用されているシステムの大規模な更新に携わったことです。このシステムは中央省庁のシステムの中でも、とても複雑で規模が大きいものです。長い年月をかけて開発された新システムの稼働直前は、独特の盛り上がり、緊張感、忙しさがあり、貴重な思い出となりました。

(執務室内にて)



プロフィール よしだ てるき
平成30年入省 現職
一般職(電気・電子・情報)採用



霞が関で一番大きなシステム

厚生労働省では、年金、ハローワーク、労働基準関係などの大きなシステムを運用しており、厚生労働省のシステム運用経費は、政府全体の4割近くになります。

最近では、スマホやタブレット端末が普及し、AIの活用が広がり、まもなく5Gサービスも始まる中、国民が紙ではなく電子的に手続を行えるよう、政府全体でデジタルガバメントに向けて取り組んでいます。厚生労働省が扱う手続は、政府手続の中で最も多く、厚生労働省の果たす役割は大きなものとなっています。

また、厚生労働省では、データヘルスを推進し医療や介護の情報化を進めたり、医療や水道などの重要インフラのセキュリティ対策にも取り組んでいます。

私は、これまで、総務省や文部科学省で、情報通信政策や教育の情報化の仕事をしてきましたが、みなさんが培ってきた電気・電子・情報の知識を生かして、国民の生活がより便利に豊かになるように、厚生労働省と一緒に仕事をしていければ嬉しいです。

椿サイバーセキュリティ・情報化審議官

各府省情報化専任審議官（副 CIO）・副最高情報セキュリティ責任者（副 CISO）

キャリアパス

	係員	係長級	補佐級	課・室長級
厚生 行政	<p>2～3年ごとにシステム運用部門、セキュリティ対策部門、システムを利用する業務部門を異動し経験を積みます</p> <p>入省後すぐに新規採用職員等研修（厚生労働行政の業務説明や施設等機関の見学）を2週間行います。</p>	<p>担当するシステムやセキュリティの企画・立案、予算要求等を担当</p>	<p>課の予算要求・管理、システムの企画・調整を担当</p>	<p>本省課・室の業務の総責任者</p>
労働 行政 (労働基準行政・職業安定行政)	<p>2～3年ごとにシステム運用部門、セキュリティ対策部門、システムを利用する業務部門を異動し経験を積みます</p> <p>入省後すぐに新規採用職員等研修（厚生労働行政の業務説明や労働基準監督署やハローワークの見学）を2週間行います。</p> <p>全国いずれかの都道府県労働局、労働基準監督署又はハローワークでの実地研修により現場を経験します。</p>	<p>担当するシステムや、セキュリティの企画・立案、予算要求等を担当</p> <p>都道府県労働局への業務指導、調整などを担当</p>	<p>課の予算要求・管理、システムの企画・調整を担当</p> <p>都道府県労働局幹部職員（部長など）としてマネジメント業務に携わることがあります</p>	<p>本省課・室長又は都道府県労働局長として課・室や労働局の業務の総責任者</p>

研修

採用後、役職に応じた最新のテクノロジスキル・マネジメントスキルを習得できるよう、IT及び情報セキュリティ関係の豊富なメニューの研修を受講することができます。

一例として、平成31年度までに独立行政法人情報処理推進機構の整備した共通キャリア・スキルフレームワークのレベル3に到達できるよう各種研修を計画的に受講することができます。

また、ITスキル以外にも、語学、広報、統計、危機管理等外部専門家等による、多彩な研修を受講することもできます。

